

令和 5(2023)年度 事業計画書

自 令和 5 年 4 月 1 日
至 令和 6 年 3 月 31 日

公益財団法人 九州盲導犬協会

令和5(2023)年度 事業計画書 (令和5年4月1日～令和6年3月31日)

当協会は、2023年9月に創立40周年を迎えるが、それを機に、次の10年のステップアップの年としたい。特に2020年以降はコロナウィルスの影響もあり、盲導犬普及啓発活動の縮小など、事業計画の後退を余儀なくされた。改めて、ウィズコロナの下での事業活動に必要な検討・改善を行い、役職員一丸となって、事業計画を達成できるよう努力・工夫を続けてその成果に結びつけたい。

1. 盲導犬育成事業

(1) 視覚障がい者に対する歩行指導及び盲導犬貸与

今年度の盲導犬育成目標を8頭とし、視覚障がい者へ盲導犬を貸与する。

(2) 盲導犬使用者（以下、ユーザーという）に対するフォローアップ（FU）

定期FU・問題解決FU等により、ユーザーの歩行の安全確保のため適切なFUを行い、ユーザーの生活をサポートする。

(3) 犬の飼育および訓練

① 繁殖

計画的な繁殖・出産により子犬目標35頭を確保する。またAGBN（Asia Guide Dogs Breeding Network）加盟協会と引き続き連携し、繁殖犬の確保に努める。

② パピーワオーキング

35頭の子犬をパピーワオーカーに飼育委託し、飼育講習会及び巡回指導並びにビデオ配信等を通じて、子犬の健康管理とパピーワオーカーに対する飼育指導を実施する。

③ 候補犬の訓練

犬の稟性評価・健康評価を適正に行い、候補犬の訓練を実施する。

④ 盲導犬の健康管理

FUおよび盲導犬7歳時検診の実施などにより、盲導犬の健康状態の把握に努め、ユーザーが安心して盲導犬を使用できるよう健康管理指導及び助言を行う。

⑤ 繁殖犬・リタイア犬等のケア

飼育ボランティアおよび獣医師と連携して、それぞれの犬の健康管理に努める。

⑥ 犬舎管理

犬舎担当職員・訓練士が連携して、犬舎の衛生管理および訓練犬の健康管理に努める。

(4) 訓練担当職員の育成

① 職員の育成

知識・技術の向上を目的に、2023年4月カナダ国で開催の「国際盲導犬連盟セミナー」に職員2名を派遣、全国盲導犬施設連合会（以下「連合会」という。）が主催する加盟施設職員交流事業等各種研修会に職員を派遣する等、自己研鑽を奨励する。

② 盲導犬歩行指導員等の養成

今期は、盲導犬訓練士を目指している研修生4名に対して、連合会が実施する盲導犬訓練士資格認定試験に受験できるよう指導育成する。

2. 普及啓発事業

- (1) 創立 40 周年記念事業として、感謝祭「ありがとう 40 周年」を令和 5 年 9 月に開催する。
- (2) 総合訓練センターにおける啓発活動
 - ① 盲導犬慰靈祭を令和 5 年 4 月に実施する。
 - ② 一般見学会を毎月 1 回行う（12 月は除く）ほか団体見学会を積極的に受け入れ、一般社会に対して盲導犬および補助犬法について正しい情報・知識を提供する。
 - ③ 盲導犬宿泊体験希望者を募り、体験歩行会を行うなど盲導犬の普及啓発に努める。
- (3) 盲導犬普及啓発街頭活動
商業施設、九州運輸局、RKB ラジオまつり・糸島市民まつり、各地区の国際ライオンズクラブ及び地域の団体等が主催する普及啓発イベント及び募金活動に積極的に参加して、補助犬の受け入れに対する理解を深める。
- (4) 講演・実演・体験歩行会の実施
行政及びボランティアの協力を得て、小中学校における盲導犬総合学習に講師を派遣し、盲導犬と視覚障がいについて、正しい情報・知識を提供する。
- (5) 広報活動
ホームページおよび協会報「ハーネス九州」を年 2 回発行する等、補助犬に関する情報の発信に努める。

3. 関係団体協力事業

- (1) 九州盲導犬友の会ユーザーとの協力及び連携を深め、協会事業の発展に努める。
- (2) 全国盲導犬施設連合会、日本盲人社会福祉施設協議会、県市社会福祉協議会等関係団体と協力し、福祉事業としての一層の発展充実を図る。

4. その他

- (1) 苦情・相談について
行政・関連団体と連携を取りながら、盲導犬使用者・ボランティア・一般市民からの相談や苦情に迅速に対応する。
- (2) 財政基盤の安定について
 - ① 賛助会員への新規加入の働きかけを行うとともに、会員・寄附支援者に協会報等を通して協会事業の理解と継続的支援をお願いする。
 - ② 盲導犬募金箱の新規設置先の開拓を行うとともに、既設置先へ継続的な支援をお願いする。
- (3) ローコスト経営について
ローコスト意識を職員一人ひとりに徹底し、無駄な経費の削減に努める。